

KINGCA WEEK 2025・Master Class 参加感想記

大阪公立大学消化器外科 石舘武三

この度、韓国ソウルにて開催された KINGCA WEEK 2025 および Master Class に参加させていただきました。参加にあたり、日本胃癌学会より助成を賜りましたこと、この場をお借りして深く御礼申し上げます。本稿が今後の参加を検討される先生方の参考となれば幸いです。

学会に先立ち、Master Class として Yonsei University Severance Hospital cancer center (セブランス病院) にて手術見学を行いました。セブランス病院は年間 1000 例近い胃切除を行うハイボリュームセンターであり、多くのロボット支援手術と腹腔鏡手術を拝見することができました。特に、非優位鉗子の牽引が絶妙で滞りなく郭清が行われる様子は圧倒的で、まさに芸術的であると感じました。若手の術者も多く、見学させていただいた手術症例は 4 例目だったと後に聞き、大変衝撃を受けました。

また、Physician Assistant と呼ばれる看護師が Patient Side Surgeon や腹腔鏡の助手を務め、外科医 1 名体制で円滑に手術が進行している点も大変印象的でした。手術の効率化と安全性を両立させるシステムは、日本の現状と比較して多くの示唆を与えてくれました。

さらに、Woo Jin Hyung 先生による Live Surgery にも立ち会うことができました。ICG 点墨を用いたリンパ節郭清ナビゲーションや 3D 血管構築の表示など、手技の洗練と安全性向上への取り組みを間近で学ぶことができました。また Hyung Il Kim 先生による Da Vinci SP を用いた胃切除も拝見し、定型化されたスムーズな操作に強い感銘を受けました。

9 月 25 日からは KINGCA WEEK 2025 が開催され、多国籍の参加者による英語での活発な議論に触れることができました。韓国における多施設共同研究の進捗報告や、再建法・リンパ節郭清に関する最新の知見など、日々の臨床に直結する内容を数多く学ぶことができました。私はポスター発表を行いました。英語でのディスカッションの難しさと同時に国際学会で発表する醍醐味を実感いたしました。

また、学会の懇親会として 9 月 26 日に Gala Dinner に参加しました。お世話になった Kim 先生に加え、多国籍の先生方と美味しい食事を楽しみながら交流できたことも、非常に良い経験となりました。学術面のみならず、国際的な交流を通して多くの刺激を受けました。

今回の参加を通じて、手術技術のみならず、国際的な知見や医療システムの違い、そして多国籍の医師との交流の重要性について深く学ぶことができました。今後は学んだことを自身の診療・研究活動に還元し、より良い治療の提供を目指してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本胃癌学会の先生方、事務局の皆様、そしてご指導・ご厚意を賜りましたセブランス病院、KINGCA WEEK 2025 関係者の皆様に心より感謝申し上げます。